

『ロシアにおける反ユダヤポグロム史のための資料集』 (3)

黒川 知文

社会科教育講座

The Materials for the History of Anti-Jewish Pogroms in Russia (3)

Tomobumi KUROKAWA

Department of Social Studies(History), Aichi University of Education, Kariya 448-8542, Japan

第1部

候補者をエリサヴェトグラードに派遣する。(L. d. 2)。

ポグロムに関する当局の報告(1881年4月・9月)

第3号

警察文書資料部の文書から。『ロシア南部地方の諸都市において、ユダヤ人財産の略奪を伴う、ロシア人群众によって引き起こされた混乱について』。第681号。第1部。1881年4月19日開始。1881年5月6日終了。(表紙に「永久保存」の注記あり。その下に「15年間保存」の訂正あり。)

1881年4月16日付で、オデッサ臨時総督が内務大臣に送った電報の写し：昨日、4月15日、午後4時頃、エリサヴェトグラードにおいて、ユダヤ人商店の略奪と、キリスト教徒とユダヤ人との間の取っ組み合いの喧嘩をきっかけとして混乱が発生。理由は明かではない。本日4月16日朝までの通報では、群众の気持ちは静まっていない。私は、知事が到着するまで、すべての対処を師団長コスィチ将官に一任した。将官には、必要に応じて、近辺から部隊を召集し、酒屋や飲み屋を閉鎖する権限が与えられていた。60人ほどが逮捕された。調査が開始された。(L. d. 3)。

第1号

1881年4月15日付で、オデッサ臨時総督が内務大臣に送った電報の写し：しかるべき措置を講じたので、逾越祭の期間中、オデッサのキリスト教徒とユダヤ人との間には混乱も衝突もまったくなかった。(L. d. 1)。

内務大臣よりアレクサンドル3世への報告

第2号

昨日、15日午後4時、エリサヴェトグラードにて、キリスト教徒の群众が、市場のユダヤ人店舗のいくつかを破壊。通りに群众が集まり、ユダヤ人を殴打。シナゴグや個人宅のガラスを割り、町の様々な場所で居酒屋を破壊。呼び出された軍隊が、商店の略奪を禁じ、群众を解散させたが、混乱は続いた。検察官が、この件について夜半に電報を打ち、状況は非常に深刻であると証言。現在、総督のところには、この件について報告が寄せられている。総督は、(この件について報告を受けている)知事が来るまで、エリサヴェトグラード師団長に対して、混乱の収拾のためにしかるべき措置を講じるよう依頼。検察官セルゲーエフの監視下で、調査が開始され、現在進行中である。かなりひどく殴られた者が何人かおり、約60人が逮捕された。オデッサは平穏。調査を迅速化するために、今日、何人かの

第4号

オリジナルの上には、皇帝陛下御自身の手による「はなはだ遺憾なり」との殴り書きがある。

オデッサ臨時総督は、本年4月15日付の電報により、私に次のように伝えてまいりました。聖復活大祭の祝日の期間は、しかるべき処置を講じたため、地元のキリスト教徒とユダヤ人との間にまったく混乱や衝突などなく過ぎました。その後、同日に私が受け取った電報にて、侍従武官長ドンドゥコフ・コルサコフ公から、昨日4月15日午後4時頃、エリサヴェトグラードにて、ユダヤ人商店への略奪と、キリスト教徒とユダヤ人との間の取っ組み合いの喧嘩をきっかけとして混乱が始まったとの報告がありました。原因は不明。4月16日朝までに届いた報告によれば、群众の気持ちは静まっていません。知事が到着するまで、総督は、すべての対

処を、師団長コスイチ将官に一任されました。将官には、必要に応じて、近辺から部隊を召集し、酒屋や飲み屋を閉鎖する権限が与えられています。60人ほどが逮捕され、調査が開始されました。さらに詳しく報告するよう、本日、ドンドゥコフ・コルサコフ公に電報で命じましたので、上記につきまして、必ず皇帝陛下に御報告いたします。侍従武官長ロリス・メリコフの署名。(L.d.4)。

第5号

オデッサ臨時総督が内務大臣にあてた1881年4月16日付の電報の写し：混乱はまだ収まっていない。エリサヴェトグラード駐留の軽騎兵連隊、士官学校、地元の小隊を助けるために、近郊の軍隊が召集された。軍隊の指揮、及び、混乱の鎮圧にあたったのは、コスイチ将官であった。知事のエリサヴェトグラード到着予定時刻は、明日17日の朝6時。知事の同意のもと、秩序維持のための条例を臨時に発布する権限をコスイチ将官に与えた。臨時総督付将官コルチャコフを現地に派遣した。(L.d.5)。

第6号

オデッサ臨時総督が内務大臣にあてた4月17日付の電報の写し。

午前中に受け取った報告によれば、エリサヴェトグラードは、夜半から朝にかけて平静を保った。知事が到着し、「混乱とユダヤ人の財産略奪には、近郊農村の農民や、現在都市近郊に現れつつある群衆も参加した」と私に伝えた。400人以上が逮捕され、その多くが略奪した物を携えていた。検察機関によって逮捕者に対する取り調べが行われている。ユダヤ人のうち一人が殺され、数人が殴打された。混乱の内容は、主に、ユダヤ人の財産の略奪と破壊。夜半に軽騎兵3中隊が到着。本日、ニコラエフから歩兵大隊が到着予定。軍がどうして初期段階で混乱を収拾できなかったのか証拠を得るため、本日軍管区参謀長を軍首脳部の対処に問題がなかったか調査するために派遣した。(L.d.6)。

第7号

内務大臣がオデッサ臨時総督にあてた1881年4月17日付の電報の写し：

特に先の祝日にエリサヴェトグラードに起こったのと同様な混乱が貴地方の他のユダヤ人居住地において起こらないようにするため、最も厳しい処置を講じて、当地のキリスト教徒とユダヤ人を監視されるよう願

う。貴殿が取られた措置については、侍従武官長ドレンチェレンに報告されたし。ドレンチェレンには、貴殿と最も近い位置につくよう依頼したので。エリサヴェトグラードだけではなく、他の場所〔の状況〕についても、やや頻繁に連絡を賜りたし。混乱を前もって予防できなかったか、無為無策や統率力がなかったためではないか、という点について事実を確認すべく、エリサヴェトグラードの市当局の行動について詳しく調査するよう指示を出せませんか？

第7号

キエフ。総督へ。

4月15日にエリサヴェトグラードでキリスト教徒とユダヤ人との間に衝突が発生し、同時に、深刻な混乱が生じ、ユダヤ人が殴打され、その財産が略奪されました。17日、軍隊の投入により、混乱は収まり、秩序が回復しました。閣下による正式な報告がない場合に備えて、閣下に、オデッサ臨時総督からの1881年4月16、17日付の電報の写しを提出いたします。これは、エリサヴェトグラードにおいて発生した混乱に関する報告であります。

エリサヴェトグラードや、ユダヤ人の数が圧倒的に勝っているノヴォロシースク地方の他の場所で（特に大復活祭の休日に）発生したのと類似した混乱が起こる可能性があるため、また、そのような事件の予防のために、私は、本日付の電報で、ドンドゥコフ・コルサコフ公に対して、最も厳しい手段を講じて、指定地域におけるキリスト教徒とユダヤ人の行動を監視するよう指示いたしました。南西地方の諸県においてもこのような手段を講じる必要があるため、私は、キエフ、ポドリスク、ヴォルィンスク各県の総督たちにも電信で通知しました。さらに、侍従武官長ドレンチェレンには、この問題について、オデッサ臨時総督と緊密な連絡を取り合うよう指示しました。同時に、侍従武官長ドンドゥコフ・コルサコフ公にも、エリサヴェトグラード市当局の行動について詳細に調査するよう指示しました。それは、事件発生前に当地で起こった混乱を予防することができなかったのか、このような大規模な混乱の拡大は関係責任者の無為無策によるものではなかったか、という点について事実を確認するためであります。1881年4月17日。侍従武官長ロリス・メリコフによる署名。(L.d.9)。

第9号

法務大臣から内務大臣への1881年4月17日付公文書。エリサヴェトグラード市の管区裁判所検察官が、本年

4月17日1時、電報にて私に次のように報告した。「混乱は収拾され、町は平静を取り戻した。夜半に部隊が新たに到着。知事により秩序が回復した。」D・ナボコフ。(L. d. 10)。

第10号

オデッサ控訴院検察官アリストフから法務大臣への電報(4月16日夜7時)の写し

エリサヴェトグラード市検察官から、正午、「混乱は収拾されておらず、市内全域において略奪が発生」との電信報告あり。ユダヤ人が一人殺される。人々の間に警察への襲撃の恐れあり。総督を訪問。総督は、混乱の収拾のため断固とした措置を講じた。市の軍隊が増強される。援助のため、オデッサから将官が派遣される。ヘルソン県の知事が明朝6時にエリサヴェトグラードに来る予定。本日夕方、3人の候補者が援助のためエリサヴェトグラードに来る。検察官の監視に協力させるために、オデッサ検察官ツェストフを必要に応じて招請することを、エリサヴェトグラード検察官に許可した。ツェストフは、休暇でエリサヴェトグラードを訪問中。この措置を承諾願う。(L. d. 10)。

第11号

内務大臣から、ハリコフ県及びヴィレンスク県知事への電報(1881年4月18日付)。

4月15日、エリサヴェトグラードにて、キリスト教徒とユダヤ人が衝突。続いて、混乱が起こり、ユダヤ人への殴打と、その財産の略奪が発生。現在、秩序は回復している。閣下に正式な通知がない場合に備えるため、また、閣下の任地のユダヤ人居住区において(特に最近祝日に起こったのと)類似した悲しむべき事件が発生するのを予防するためにも、然るべき手段を講じて、キリスト教徒とユダヤ人の行動を監視されるよう願います。状況については、電信にて私に報告してください。(L. d. 11)。

第12号

政府の通知(1881年4月18日付)の写し

4月15日、エリサヴェトグラードにおいて、キリスト教徒とユダヤ人との衝突が発生。続いて、取っ組み合いの喧嘩が起こり、ユダヤ人たちが殴られ、何軒かのユダヤ人の家や酒屋が略奪された。17日の朝に、混乱は収まり、平静さが戻った。殴り合いの喧嘩の中で、ユダヤ人が一人殺され、2、3人が殴られて重傷を負っ

た。検察官の監視の下での厳しい取り調べが始まった。(L. d. 12)。

第13号

オデッサ臨時総督から内務大臣への電報(4月18日付)の写し

エリサヴェトグラードにおいて、2日間にわたり、秩序は完全に保たれた。多くの者は、略奪したものを自発的に返した。エリサヴェトグラード郡では、昨日17日、4つの村落において騒乱があり、続いてユダヤ人の居酒屋において略奪があった。これらの騒乱はすでに収まっていたが、それに伴い、これらの村落のうちの2つに、騎兵斥候役の士官を伴った騎兵隊が派遣されたのである。アナニエフ郡のゴルトにおいて、同じ様な騒乱があったが、オリヴィオポリの警察、リーダーと住民たちによって鎮圧された。また、同様の性質を持つ騒乱がアレクサンドリスキー郡で発生したが、同じく鎮圧された。この際、ズナメンカにキンブルンスキー竜騎兵中隊が、アドジャンカには、軽騎兵が召集された。今日まで、騒乱は再発していない。他の県は平静である。(L. d. 13)。

第14号

内務大臣の報告短信の写し(1881年4月18日)。

オリジナルの上には、皇帝陛下の直筆で「読了」と記してある。

昨日の私の報告短信への補足として、皇帝陛下に、本日エリサヴェトグラードでの騒乱に関してオデッサ臨時総督から私のもとに届いた電報の写しを提出いたします。侍従武官長ロリス・メリコフ。(L. d. 14)。

第15号

オデッサ臨時総督から内務大臣への電報(4月18日付)の写し。

昼前の11時までには届いた報告によれば、エリサヴェトグラードにおいて、状況はまったく平静。地方市議会の嘆願書に従って、目前に迫ったゲオルギー祝日を数日間中止することを許可。貴殿の指示に従い、侍従武官長ドレンチェレンとの間に互いに連絡を取り合う約束をした。総督府隣接地において発生している事件に関する情報だけでなく、祝日の前に騒乱を未然に防いだり鎮圧するためにどのような手段を講じているかについても互いに情報を交換する約束を取り交わし

た。衝突が起こりそうだと噂がロストフやベルジャンスクでも広まっている。必要な予防策を講じるために、知事が、ロストフに向けて出発した。当地に配置されたコサック部隊の、必要時の援軍について、ドンスキー部隊長との間で連絡を取った。地元小隊の強化のために、ノヴォチェルカスクからベルジャンスクに向けて、中隊が派遣された。現在まで、これらの町から危険を知らせる情報は届いていない。エリサヴェトグラードの市当局及び軍当局の行動に関する調査が実施される予定。(L.d.15)。

第16号

内務大臣よりオデッサ臨時総督への4月19日付の電報の写し。

私の電報への追伸：ハリコフ県において起こった騒乱が何らかの悪意の挑発によって引き起こされたものかどうか、内密に調査を請う。(L.d.16)。

第17号

ハリコフ臨時総督から内務大臣への1881年4月19日付の電報の写し。

ユダヤ人居住地区における〔騒乱の〕予防に関して、措置を講じた。当地は、さしあたり万事平穏、騒乱は一切なし。(L.d.17)。

第18号

内務大臣から〔皇帝陛下へ〕の報告短信(1881年4月18日付)の写し。

オリジナルの上には、「読了」という皇帝陛下直筆による書き込みあり。

昨日の私の報告短信への追伸として、陛下に、本日オデッサ臨時総督から届いた電報の写しを提出いたします。この電報は、4月17日にヘルソン県のいくつかの村落において起こった騒乱についての報告であります。ユダヤ人の居酒屋が略奪されましたが、現在すでに鎮圧されております。本日付の電報において、私は、侍従武官長ドンドゥコフ・コルサコフ公に対して、ハリコフ県において起こった騒乱が何らかの悪意による挑発によって引き起こされたものかどうか、内密に調査するように命じました。回答があり次第、その内容を陛下に必ず報告致します。私の質問に対する回答として、ハリコフ、キエフ、ポドリスク、ヴォルィンスク諸県の臨時総督たちから届いた情報によれば、これら

の長たちに任された県は、現在まで、まったく平穏であり、キリスト教徒とユダヤ人の間に衝突はまったく起きていません。侍従武官長ロリス・メリコフ伯爵。(L.d.18)。

第19号

オデッサ臨時総督から内務大臣への1881年4月18日付電報(第13号において引用された電報が続く)の写し。

1881年4月19日付：エリサヴェトグラードでは秩序が保たれている。他の場所も平静。

第20号

内務大臣への電報の写し：

1.4月19日付キエフの総督からの電報：「スミューラ村やコルニャ村のユダヤ人に対して襲撃が予想されるとの情報が届いたので、本日、各村に一大隊ずつ列車にて派遣した。」

2.ベッサラビア県総督からの4月20日付電報：「本日正午、キシニョフの新しい市場において、ロシア人とユダヤ人との間に取り組み合いの喧嘩が発生。検察官と共に現場に自ら出向く。社会秩序の乱れ以外何も起こらず。何軒かのユダヤ人商店の窓ガラスが叩き落とされる。事態は調査中である。この地域の警察署員では足りないため、軍隊による頻繁なパトロールを導入。酔っぱらい多数。飲み屋を一時閉鎖。」(L.d.20)。

第21号

ポルタヴァ県知事から内務大臣への1881年4月21日付電報の写し。

本日、ミルゴロド・デミヤノフスキーに残り、公式声明を発する：自分を『オルロフスキー・ヴェストニク』への寄稿者と名乗る。(L.d.22)。

第22号

国家警察局長への電報。

キエフ市の p. b.

ユダヤ人に対する敵意を表わす騒乱は、これまで県のどこにおいても起こっていない。スメーラやコルスーンへは、実際、総督の判断により、一大隊ずつ派遣された。これは、侍従武官長ドレンチェレンに届いた「エ

リサヴェトグラードと類似した騒乱がスメーラヤコル
スーンに限定して発生する可能性がある」という情報
に基づいて取られた予防的措置である。ツォルコフニ
ク・ノヴィーツキー (L. d. 24)。

第23号

キエフのノヴィーツキー連隊長からの暗号電報の解読
文。

キエフ及び郊外において、正午からユダヤ人への殴打
と財産の略奪があった。死者なし。部隊の中に切り傷
や打撲傷を負った者たちあり。群衆の中の逮捕者は
200人以上。軍の武器使用は現在まで問題である（使
用しなかったのか？）革命グループの活動家は参加し
なかったが、騒乱を利用しようとしている。(L. d.
25)。

第24号

キエフ県、ポドリスク県、ヴォルィンスク県の総督か
ら内務大臣への1881年4月26日付の電報の写し。

本日、26日、正午頃、キエフのツォドルにおいて騒乱
が発生。あらゆる策を講じたが、ユダヤ人の商店、居
酒屋、何軒家の民家への略奪に発展した。夕方近く、
騒乱は、ポドルの反対のキエフ側にあるジェミエフカ、
ユルコフツイ、シュラフカといった郊外の集落にも広
がった。破壊の規模大。明日、集められた情報に基づ
いて、追加連絡する。逮捕者200人以上。(L. d. 26)。

第25号

キエフ県知事からの暗号電報の解読文。1881年4月27日
付の電報の写し。

本日午後、主にキエフのポドリスク地区とツロスカヤ
地区及び近郊の集落において、ユダヤ人に対する騒乱
が発生。ユダヤ人の住宅と商店が略奪された。逮捕
者約400人。対策を講じたが、騒乱はまだ収まってい
ない。軍の武器は使用されていない。(L. d. 28)。

第26号

キエフのノヴィーツキー連隊長からの暗号電報の解読文
(鉛筆書きで「4月27日付」と追記)。

朝の3時に、ポドルから戻った。ポドルでは、群衆が
まずユダヤ人の財産に限って略奪を行っていた。総督
自らが現れてようやく略奪は終了し、群衆は四散した。

ジェミエフカ村では、ユダヤ人の民家、商店、居酒屋
が略奪に遭い、放火により大きな火災があった。すで
に500人ほどが逮捕された。総督が市民に理解を求め
る声明を発表するために現地に向かった。参加者は軍
事裁判にかけられると警告し、一般の人々に助言と説
得に当たった。声明は市全体に布告された。いくつか
の場所ではまだ騒乱が続いたが、規模は縮小。騒乱の
早期收拾はまだ不可能であった。ユダヤ人に対する敵
意はあまりにも強く、一般人は、皇帝の暗殺と経済的
な抑圧の原因がユダヤ人にあると考えていた。(L. d.
29)。

第27号

侍従武官長ドレンチェレンからの4月28日付電報。

午後3時頃、下層民の群衆が、プロツキーのビール工
場に押し寄せた。この襲撃を迎え打つ際に、発砲があ
り、一人の婦人が死亡、3人が傷害を負った。夕方、ジェ
ミエフカのユダヤ人の学校が放火された。現在、興奮
は収まり、軍隊は現場に残っている。(L. d. 31)。

第28号

ポルタヴァ県知事から内務省へ、事務局に関して。極
秘。1881年4月20日。第290号。ポルタヴァ。秘密。内
務大臣殿。

本年4月16日、エリサヴェトグラード警察長官から、
当地で発生したキリスト教徒とユダヤ人の間の衝突に
関する電報〔報告〕が、クレメンチュクスキー警察長
官にあった。これを受けて、長官は、クレメンチュク
に駐留しているブリャンスキー歩兵連隊から下級兵士
を召集することを許可して欲しいと、私に依頼してき
た。これは、夜間巡回を強化し、エリサヴェトグラ
ードのような騒乱を予防するためである。同日、私は、
クレメンチュクスキー警察長官に電報で次のように伝
えた。「騒擾の気運が現れた場合には、沈着冷静かつ
断固とした処置を講じ、騒乱の発生を予防しなければ
ならない。居酒屋の経営者には、店の近くや内部で喧
嘩や騒乱が発生した場合は、すぐに閉店するよう通達
せよ。この措置を取る場合、電報にて私の許可を得る
ように。騒擾の徴候がない場合は、小隊の要請は時期
尚早とみなす。」

この3日後に、警察長官より次のような報告があった。
エリサヴェトグラードにおける騒乱に関する報告が届
いた第一日目に、クレメンチュク市の住民はこの事件
に対して不安を感じた。一般民衆の間では、ユダヤ人
は私的制裁に値するとの意見が現れた。しかし、現在
まで、騒乱の気配ははっきりとは現れていない。だが、

続いて3つの事件が起こり、クレメンチュクにおいても、平民階級の間には、ユダヤ人に対する敵対感情があることが明らかになった。1. 4月17日、ラニコという予備兵が、クレメンチュクの市場で2人の労働者と出会い、彼らにエリサヴェトグレードでの騒乱事件について語り、「クレメンチュクでもユダヤ人を叩きのめせばよいのに」と語った。2. 4月17日にエリサヴェトグレードからクリュコフ村にやって来たノヴォモスコフスキー郡の農民フォードル・ルイスィーは、居酒屋で、次のように述べた。「エリサヴェトグレードでは、ユダヤ人が殺されているが、何もおとがめなしだ。なにせ、皇帝陛下がユダヤ人嫌いだからな。『ロシア人民に発砲せよ』との命令は兵士には出ないだろう。」この他にも、ルイスィーは次のように述べた。「しばらく前、皇帝陛下がペテルブルグにお出ましになったおりに、一人のユダヤ人と面会された。彼が帽子を取ると、その下に小さな丸い帽子がのっているのが見えた。陛下はこれを不満に思われ、『この帽子をこいつの頭に釘で打ち付けろ』とお命じになったそうだ。」3. 18日夜、職業安定所で、裁判所の仕事に申し込んでいたヴェリチコのもとに、見知らぬ人物が走り寄ってきた。彼の手には斧が握られていた。「おまえ、ユダヤ人か？」と彼は尋ねた。ヴェリチコの悲鳴を聞いて、町の辻馬車御者が走り寄った。その襲った男は逮捕された。彼は、クリュコフ村の住人シニャコフであると判明した。犯罪者ラニコ、ルイスィー、シニャコフは、警察に逮捕され、規則に従って処罰された。私は、警察署長に対して、異なる信仰の持ち主の間に不穏な空気が現れた場合、個々のケースに沈着冷静に対処する必要性を説いた。また、このような事態においては、いささかも心を乱すことなく行動するように部下の警察官らに指示するよう助言した。さらに、私は、署長からの情報を考慮し、夜間巡回の強化のために40人を派遣するようブリャンスキー連隊に要請することを許可した。この件に関して、閣下に報告すべきであると存じ上げます。また、この他にも私はハリコフ臨時県知事に情報を提供したことを閣下に報告致します。さらに、私は、閣下に、軍事官庁の運営に関して、閣下が私を放置なさらぬよう御願いたします。それは、1878年1月19日付皇帝の勅令に従って、必要の際には軍事命令が絶え間なく下されるためです。それは、騒乱の鎮圧のためだけではなく、今回の事件のように、騒乱予防の夜間巡回を強化するためでもあります。知事ピリバソフ。(L. d. 37-39)。

第29号

キエフの連隊長ノヴィツキーからの暗号電信の解読文(1881年4月28日)。

キエフでは、騒乱は顕著に沈静化したが、夜間に群衆が再び活動を開始する恐れは十分にある。というのも、すでに昼間、郊外の村落において、ユダヤ人住居を破壊する機会があったからである。ジェミエフカにおいて、シナゴークが焼き払われた。ブリヴァルヌイ地区では、モロゾフ将官の部隊長(中隊長ではない)の命令により、軍は火器の使用に踏み切った。というのも、群衆をまったく制止できなくなったからである。投石したり、鉄球付の棒で武装して略奪に走り、軍に立ち向かって来る彼らをもはや素手では制止できなかったからだ。71個の実弾が発射された。第41予備大隊の准尉レミンスキーが、憲兵に対して抵抗し、群衆の行動を助長した罪により、チラスポリ連隊の将校たちによって逮捕された。町の近郊の村落や、オスチェルスキー郡ニコリスク村において、小さな騒乱が発生した。キエフで千人近くの人が逮捕された。軍指揮官は、守備隊を増強した。(L. d. 40)。

第30号

侍従武官長ドレンチェレンからの4月29日付電報。

キエフでは、まる1日、騒乱はない。冷静になって略奪の犠牲者となったユダヤ人を見たロシア人たちは自分のことが心配になりだした。町全体が混乱状態に陥っている。本日、ヴァシリコフやロストフにおいて略奪を企てる者があった。キエフからジトミールやヴァシリコフへの道なりに、いくつかのユダヤ人の居酒屋が破壊されていた。道づたいに小さな騎兵縦隊が発進した。ヴァシリコフ、ペーラヤ・ツェルコフイ、カザーチン、ベルジチェフは、軍隊でいっぱいになるだろう。平静なヴォルィンスク県から軍隊がやって来る予定。(L. d. 41)。

第31号

キエフの連隊長ノヴィツキーからの暗号電信の解読文(1881年4月28日付)。昨日の発砲後、略奪は止んだ。群衆は、夕方も夜も朝も現れない。秩序の回復が期待できそうだ。(L. d. 43)。

第32号

オルロフ憲兵警察鉄道管理局の局長からの暗号電信の解読文(1881年4月28日付)。

キエフの支部長ドプロホトフ大尉は、電信で私に「キエフ、及び、キエフ2駅、コノトプの近くで、ユダヤ人の商店と住居が破壊された」と伝えてきた。(L. d. 44)。

第33号

国家警察局へ。キエフ県憲兵局長。1881年4月24日。第665号。キエフ。秘。4月21日付の私の電報への追加として、以下報告させていただきます。県知事より、ユダヤ人への敵意から生じた騒乱が起こったならば、すぐに報告するようにとの指示を受けたキエフ県郡警察署長らの中から、チギリンスキー郡警察署長が、4月22日、電信で次のような内容を伝えてきた。すなわち、「ツヴィエトニャンスク郷の農民の間は不安に怯えているとの情報あり。さっそく私は現地に出向いて『この郷には危険はまったくない』と伝えた。しかし、やはり不安な空気は至る所で感じられた。」4月23日、この警察署長は、「住民の不安は至る所において極度に高まっており、アレクサンドル村の祝日をも訪れたが、『ここでも騒乱が起こるだろう』と人々がうわさしていた」と語った。このため、アレクサンドル村に、スミェール村に配置されていた大隊から中隊が派遣された。チェルカッシー郡からやってきた仲裁官アプレーフは、自ら知事に対して、農民全般がユダヤ人だけではなく、ポーランド人や地主一般に対しても反感を抱いている状況について説明した。民衆のうわさでは、彼らから土地を取り上げなければならぬとか言われているらしい。本年4月23日午後、キエフ市において、反ユダヤグループに煽動されて一般人の間に動揺が起こった。市のポドリスク地区とプロスク地区において、ロシア人の子供とユダヤ人の子供たちの間に小さな喧嘩が発生した。大人たちは声援していた。しかし、当局がやってきて、すぐにこの小さな喧嘩は収まった。ユダヤ人には、表には出ないよう、子どもたちを家から出さないよう助言があった。巡回中の軍によって、一般人の小さなグループや集まりはすぐに解散させられた。このおかげで、衝突はまったく起こらなかった。県知事閣下と私は、市中を巡って、夜の第十時には、群衆はまったく見あたらず、一人のユダヤ人も通りで出会うことはなかった。居酒屋は閉まっていた。23日から24日にかけて、夜、騒乱はまったく起こらなかった。大尉ノヴィツキー。(L.d.45-46)。

第34号

キエフ県憲兵局長。1881年4月24日。第669号。国家警察局へ。

本日4月24日の報告第665号への補足として、以下報告いたします。アレクサンドル村での祝日は平静に終了した。しかし、チギリンスキー郡では、「騒乱がズラトポリで4月26日、チギリンスキー郡で27日の縁日において起こる」という噂が流れている。ズラトポリの住民のたつての願い・・・これは、ノヴォミルゴロド市長から総督閣下

に伝えられた・・・に応じてAドレンチェレン侍従武官長は、コルスニから2つの中隊をズラトポリに移動するよう命令を発した。ベルジチェフ警察署長が「数日後にベルジチェフに近郊農民たちが、ユダヤ人を殴るためにやってくる」という、町で広まっている噂についてのみ電報にて報告した。ユダヤ人しか住んでいないヴァシリコフ郡のペーラヤ・ツェルコフィ村では、平穏で、さしあたり雰囲気は良好である。

情報によれば、本年4月23日、キエフ市において、取っ組み合いの喧嘩において殴打された大人ではない人々が20人ほどいた。殴打はひどいものではなかった。一般のロシア人とユダヤ人との間の衝突を予防するために、地方当局はあらゆる可能な手段を講じている。(L.d.47)。

第35号

ベテルブルグ。内務大臣へ。1881年4月28日付電報。第5348号(ハリコフより)。

今朝、コノトプ市長から電報が届き、「鉄道労働者たちがユダヤ人商店と駅近くの家屋を破壊。市に脅威を与えている」との報告あり。私は、直ちに、クルスクからコノトプへ1個大隊を派遣するよう指令を出した。チェルニゴフ知事に対しては、秩序の回復と犯罪者の処罰のために最も強力な手段を講じるべきであると提案した。総督スビャトポルク・ミルスキー公。(L.d.49)。

第36号

ベテルブルグ。内務大臣へ。1881年4月28日付電報(キエフより)。第4030号。

キエフは平静であるが、ファストフやジメリンカの駅と、ヴァシリコフ市でも騒乱が起こったとの情報があった。軍隊が派遣された。ドレンチェレン。(L.d.52)。

第37号

キエフのノヴィツキー連隊長からの1881年4月29日付暗号電報の解読文。

キエフでは、秩序が回復した。日が改まると、ならず者の一味も群衆も姿を現さなくなった。噂によれば、キエフにおいて、5月1日と9日に騒乱が再発するという。悲観的な情報が諸郡から届いた。近郊の農民たちや流民が、ユダヤ人が住む町々や村々に集まっている

という。軍隊がすべての現地に派遣された。(L. d. 55)。

第38号

財務省。間接税務局。1881年4月7日。第239号。閣下。タヴリダ県間接税務局長ミハイル・タリエロヴィッチ伯爵は、ベルジャンスク市において酒蔵を所有するユダヤ人が局長に提出した嘆願書の写しを、財務省に提出いたしました。この嘆願書は、嘆願者が所有する酒を、過越祭の時期にベルジャンスクにおいて発生すると予想される騒乱の際に、略奪から守ってくれることを要請するものであります。嘆願書の原文は、局長と県知事に送付されたことを申し添えます。嘆願書の写しは、閣下のご検討を賜るべく、本文書に添付し、拝送致しました。敬具。(L. d. 56)。

第39号

侍従武官長ドレンチェレンの4月24日付電報の写し。

昨日23日夕刻に、キエフのポドリにおいて、民衆が、プロスカヤと呼ばれる地区に住むユダヤ人を襲撃する兆候があった。対策を講じた結果、平静さは乱されず、夜頃には完全に沈静化した。騒乱は起こらなかった。チギリンスクの警察署長が、「ファストフスク鉄道のフンドウクレイエフスク駅の近くにあるアレクサンドル村で騒乱が起こるかもしれない」と報告。緑日にさらに多くの群衆が集まるので、この村にスミューラから1個中隊が派遣された。現在に至るまで騒乱が起こったという知らせは届いていない。(L. d. 61)。

第40号

国家警察局長閣下へ。1881年4月27日。キエフ市。

騒乱は、ロシア人群衆だけではなく、新聞が広めた情報によっても引き起こされたものであります。社会におけるこのような興奮状態の中では、騒乱に関する記事が新聞に掲載されることは、それだけでなく、様々な話によって興奮し(南ロシアで)、騒乱を起こしかねない状態に置かれている民衆の興奮と欲望をさらに強く刺激することになります。宗教的な運動に煽られ、略奪の欲望を燃やした群衆が獣のように荒れ狂っているという話は、農民や労働者たち一般の本能を刺激し煽動している。彼らは、非合法的活動をする個人によって利用されているのである。彼らは、無学な大衆を煽って次のように説きつけているのである。「皇帝はユダヤ人と地主たちを打てと命令された。彼らが皇帝を殺したからだ」と。そうなれば、民間の新聞は、政府か

らの情報をそのまま載せることに満足できるのである。(L. d. 65)。

第41号

侍従武官長スビャトポリク・ミルスキー公の1881年4月29日付電報の写し。ハリコフ発。夕方5時から、チェルニゴフ県知事は、次のように電信報告した。キエフ郊外のニコリスクとプレドモスト村において、27日夜発生した騒乱において、すべてのユダヤ人家屋が破壊され、財産が略奪された。郡当局は、現在、現地に行っており、実習場の砲兵たちの力を借りて多くの者の逮捕が行われている。逮捕者は、キエフに送致された。私は、オスチェルスキー当局が来るまで援助して欲しいとキエフ知事に依頼したが、キエフだけでも同時多発的に深刻な騒乱が起こっているため手が回らないという理由で断われた。コノトプにおいて、200人ほどの鉄道関係の職人と労働者が駅周辺の居酒屋とユダヤ人商店を破壊した。郡警察署長は、さらなる騒乱の発生を恐れている。クルスクから大隊を派遣していただけるとの電報を閣下より賜った。ついては、師団長の合意に基づいて実施が予定されているガリツキー連隊の大隊のボルズナからコノトプへの移動を中止すべきかどうか、指示を賜りたい。ネジンや、ボブロヴィツァのクルスク・キエフ線沿線の大工業地点において、騒乱が起こる危険性が大きい。ネジンには地元の軍隊がある。ポルトラツキー中將の同意に基づいてコゼレツからボブロヴィツァまで25露里の距離をアルハンゲロゴロツキー連隊の2個中隊が移動した。それは、キエフ近郊において鉄道路線を使った移動が集中し、チェルニゴフが完全に孤立したためである。2時間後に、私は、ネジン、コノトプ、ボブロヴィツァ、キエフ、ニコリスク村を訪れるために出発する予定である。騒乱が完全に収まるまで路線沿線に留まる予定。この件に関して、元老院議員との間に合意を得た。チェルニゴフから出発する前に、あらゆる不測の事態を明らかにし、軍首脳部と申し合わせをした。また、チェルニゴフの副知事に必要な指示を出した。兵力は十分であり、予防の措置が取られる。市場やユダヤ人の屋台の列への巡回が行われる。ユダヤ人自身は私の助言に従い、居酒屋の一部は何時間か閉鎖し、広場で個々に行動して喧嘩に巻き込まれることにならないよう配慮する予定。また、祝日にはあまり出歩かない予定。北部の郡において騒乱が起こる可能性があるが、そこには軍が駐屯していないので、もし起こったら最も收拾が難しくなるだろう。このため、ヴォルィンスク大隊がリバヴォ・ロメンスク鉄道経由でチェルニゴフからゴロドゥニャに派遣された。そこからなら、北西地方に移動するのが容易だからだ。北東の郡での有事の際は、ショストカとグルホフから小隊を派遣する予定。

呼び出された軍の駐屯に関しては、野営を行うか、納屋を利用する予定。民家には泊まらず。憲兵隊大尉が私と同行する。私は、現地から電報報告する予定。名前はショスタク。今、彼に次のように答えた。「貴殿が取った処置を承認する。クルスクからコノトプに派遣予定のガリツキー連隊の配置は貴殿の裁量に委ねる。有事の際には、コノトプだけではなく、クルスク・キエフ鉄道沿線の他の地点にも部隊を迅速に派遣可能。この点を念頭に、貴殿に任された県においていかなる騒乱も起こらないようにするために何をすべきか貴殿の考えを伺いたし。クルスクから第5師団に属する部隊が到着するにつれて、北部の郡に派遣することも可能になる。騒乱を鎮圧するよりもそれをあらかじめ起こらないようにするほうがよい。」(L. d. 66-67)。

第42号

ペテルブルグ。内務大臣へ。キエフより1881年4月24日付電報。第3235号。

26日日曜日に起こるとされるユダヤ人への襲撃を心配するズラトーポリ村の住民の要請に従い、ベンデル連隊の2個中隊が本日コルスニからシュポラへ派遣された。そこから、ズラトーポリに移動、明朝到着予定。これについては、ドンドゥーコフ公に連絡済み。キエフは平静。ドレンチェレン。(L. d. 72)。

第43号

オデッサのドンドゥーコフ公からの4月30日付電報の写し。

2日にわたってアナニエフから届いた情報によれば、アナニエフとベレゾフカにおいて騒乱は収拾された。しかし、近郊の村からの不穏な噂を考慮して、私は、現地に派遣されたデ・ラザリ連隊長と、本官付きのペテルセン中佐に対して、巡回を行い、村の寄り合いを召集するように命じた。それは、安寧を保つよう村民に命じ、秩序破壊に対しては厳しい処罰が下ることを警告するためである。この同じ目的のために、ユダヤ人に対する反感が見られるチラスポリ郡にも、本官付きのフォス将官を派遣した。ヘルソン県知事には、完全に平静さを取り戻すまで、郡の中で騒乱が起こっている地方に留まるよう絶えず提案し続けた。オデッサでは、騒乱が起こったとの情報に影響され、人々の間で興奮は収まらなかった。事態については注意深く監視する。秩序が破壊された場合は、初期の段階で、事態の収拾のために断固とした処置を取られるよう願う。(L. d. 73)。

第44号

ペテルブルグ。至急。第1664号。ジトミールより内務大臣へ。1881年4月30日付。

キエフにおけるユダヤ人財産の破壊を受けて、当地では、ジトミールと近郊のユダヤ人に対して、明日、殴打が加えられるとの噂が広まっている。クルスク連隊は明日宿営に出る予定。町は無防備になるため、混乱が至る所で起こっている。当局は対策を講じているが、まったく役に立っていない。連隊を町に止めておくよう、また、町の様々な地点に部隊を配置し、騒乱の発生時に軍隊を使用するよう、至急対策を講じるようお願い。キエフのように、町が破壊されるまで待つというのではなく。キエフにおいては、軍隊は第4日目になってようやく投入され、とくにコサック人による乱暴狼藉を実質的に抑えた [または、とくにコサック人の行動によって乱暴狼藉を実質的に抑えた]。軍隊の投入については、文書で正式に通告されるのが有効である。ユダヤ人住民を代表して。クリシェル、ビンシトク、ロゼンベルク、ホロジェンコ、ヴァインルト、プロズメンテル、チェフテリ、シュピリベルク、ゴテスマン。(L. d. 77)。

第45号

侍従武官長ドレンチェレンからの1881年4月30日付電報の写し。キエフでは平穏のうちに一日が過ぎた。部隊のかなりの部分を解散し、休暇を与えることができた。任務と露営が三日間続いていたのである。通りには、当番兵が残り、有事の際に時宜に合った増援ができるように手段を講じた。ヴァシリコフ郡やキエフ郡には、性質を同じくする農民たちの間で騒乱が起こり、激しさを増している。騒乱の鎮圧と、犯人の逮捕のために、騎兵縦隊が派遣された。(L. d. 79)。

(2010年9月8日受理)